

古川小学校認知症サポーター養成講座を開催しました

令和元年11月22日、古川小学校で「認知症サポーター養成講座」を開催しました。講座には、古川小学校4年生8名と、古川校区内の民生委員3名が参加。

講師である「筑后市キャラバンメイト」のメンバーより「認知症」について講座を受け寸劇を見ながら、認知症の人が困っていることに気づいたらどうしたらいいか一緒に考えました。

講義の様子

■認知症の症状「見当識障害」とはどんなことか体験してみましょう。



①講師「みなさん、さっき食べたシュークリームはおいしかったですか？」
児童「え〜、シュークリーム食べたっけ？」
「シュークリーム、食べてません」

②講師「カードに書かれた記号を見て1列に並んでみましょう」
児童「“vii” “休” ってどういう意味？」
「どう並べばいいかわからない」

寸劇

■パターン①

「小学生2人が校門の近くで、左右をキョロキョロしているおばあさんに会いました。」
→小学生2人はどうしたらいいかわからなかったの、声をかけずに帰りました。



■パターン②

「小学生2人が校門の近くで、左右をキョロキョロしているおばあさんに会いました。」
→小学生2人は、おばあさんが困っていることに気づいて声をかけ、おばあさんが困っていることを近所の人に知らせました。



講座のまとめ

■ 1回目と2回目の寸劇の違いに気づきましたか？

「おばあさんが困っているようにみえたので、声をかけた」

「おばあさんが困っていることを、近くにいた人に知らせた」

■ 認知症の人に接する時のポイント
 <3つのポイント>

- ①おどろかせない。
- ②いそがせない。
- ③相手がイヤだと思わないことを言わない。



■ 「認知症サポーター」の役割について

“認知症サポーターとは、特別なことをする人ではありません。認知症について理解して、認知症の人を地域の中であたたかく見守る役割の人です。”

■ 認知症サポーターの証「オレンジリング」の配布とアンケートの記入

アンケートより

■ これからあなたが認知症の人と接する時に、どんなことをしてあげたいと思いますか？
 (自由記載)

[4年生の回答]

- やさしく声をかけて、せつめいする。
- 道がわからないときは、道をおしえてあげる。
- 分かることだったらおしえてあげる。
- やさしく声をかける。
- 助けたり、声をかけてみたり、心づかいをする。
- やさしくたいおうする。 声をかける。
- もし認知症の人がいたら、ちかよって、道やわからないことをおしえて助けてあげたい。

